

(別紙 3)

令5年度ふるさと創生NPO連携促進事業報告書

団体名	特定非営利活動法人 さがのせき・彩彩カフェ	
<p>1. 事業内容について、進捗状況報告書をまとめるような形で記載してください。</p> <p>地域の衰退が様々な日常生活に影響を及ぼしているが、佐賀関中心部は、居住地が狭く、密集し漁師まちが残る。22年度から市民センターを発着する「グリーンスローモビリティ（グリスロ）」が実証実験されている。</p> <p>そこで、グリスロの乗降場所から、さらにモビリティで観光周遊する実証実験や電動自転車で日本文理大学生の地域支援の実証実験を実施し、過疎地の未来の生活モデルをグリーンスローモビリティにつなぐ試みを行った。</p> <p>事業実施団体として、商工会議所佐賀関支店は、電動キックボード駐輪の協力や町の案内役を行った。建築士会佐賀関支部は、地域の名勝案内板設置や案内を、国道九四フェリー・関崎海星館は受付実施協力、さらに、社会医療法人関東会と起業グループ（日本文理大学学生）は、地域内の居場所をつなぐコミュニティスローモビリティを実証実験した。</p> <p>モビリティは、株式会社TNCにより、レンタル提供と取り扱い講習を、スタッフ全員が受けた。</p> <p>当事業では、レンタルを中心に実証実験、モビリティ整備、バッテリー管理を行い、拠点間の移動を軽トラ充電装置車をレンタルして対応した。</p> <p>キックボードは一度の充電で30km走行可能。再生エネルギーでモビリティを走らせることも実証実験した。</p> <p>安全を第一に考えた環境に優しい新しい移動手段が、公共機関とタクシーやカーシェアリング、シェアリングサイクルなどと連携したサービスになる。</p> <p>次年度は実証実験の分析の結果で中心部にサービス拠点（SMS）を設立し、グリーンスローモビリティ拡大を図る予定である。</p>		

2. 事業を実施している様子等が分かる写真を4枚以上添付してください。



3. 来年度以降、事業終了後も、その効果や結果が継続されるために、組織としてどの様に、体制や対応をしていくのかについて記載してください。

事業継続の拠点（Connect さがのせき）を設立し、中長期の事業計画を予算組みし、まず軸となるモビリティの所有化を進める。

モビリティの活用で経済性を図り、中でも起業グループが連携する地域住民支援活動の有償化、所有モビリティ貸し出しサービスの有償化を図る。活動収益を未来の暮らしへ持続する地域創りに貢献する。

小さな地域が元気になる スローモビリティで持続出来る地域を守り抜く。